

2011年度の全国の新築マンション 外装色彩デザイン調査にみる 地域傾向に関する考察 No.2

Analysis of Regional Trend in Exterior Color Design for
Newly Built Condominium Buildings in Japan in 2011



CD 研究所
第1研究部
桂川有加
Yuka
Katsuragawa



CD 研究所
第1研究部
石原麻子
Asako
Ishihara

1. はじめに

2011年3月11日に東日本大震災が発生し、この自然災害をきっかけにライフスタイルや住宅に求める価値観が大きく変化したのではないだろうか。2011年度は内陸部への立地移動や免震、制震といった構造にも関心が寄せられ、「安心・安全」、「省エネ・創エネ」といった環境志向も強まっている。また家族や地域との絆を求め、住まいの在り方を考え直す人も増えている。これらの要素がマンションの外装色彩デザインにも少なからず影響を与えていると考えられる。

2008年度のリーマンショック以降、下降線をたどっていたマンション供給量(戸数)は、2011年度はわずかに上昇した。我々は2007年度から全国のマンションの外装色彩デザインの動向を調査し、報告してきたが^{1),2)}、今回その調査と比較検討した結果、外装の色彩デザインに変化が見られたので報告する(図1)。

2. 調査方法

2007年度から行っている調査と同様に、日本国内の色彩傾向を幅広く収集するため、インターネットを利用して調査を行った。

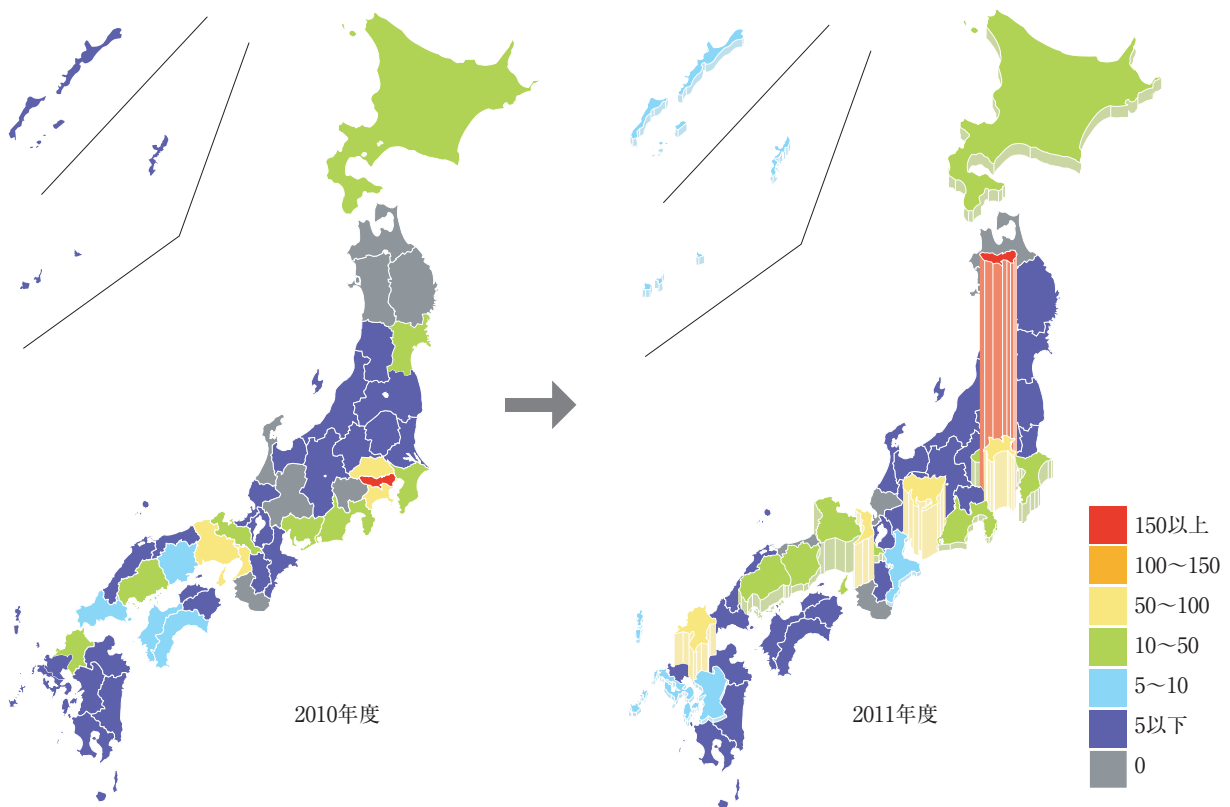
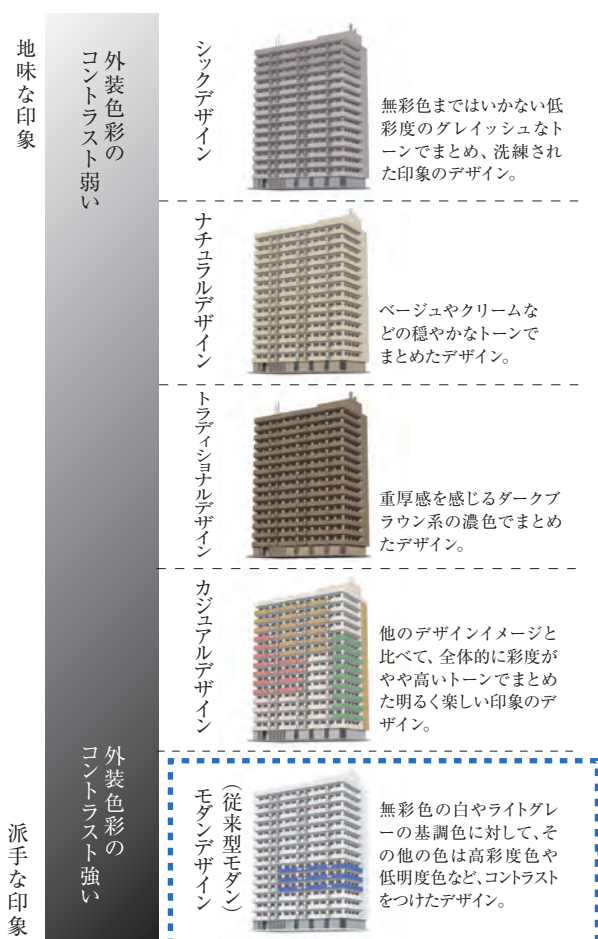


図1 2010年度と2011年度の新築マンション供給量(戸数)の比較
47都道府県中1都19県が増加、1道2府15県が減少

調査方法：インターネットを利用したホームページの検索
 調査対象：デベロッパー206社のホームページに2011年に掲載された新築予定のマンションの完成予想図
 調査期間：2011年10月～2012年3月
 調査範囲：日本全国
 調査件数：953件（2010年度877件）
 調査部位：マンションの外装部
 調査内容：マンションの外装色彩のデザイン分類（図2）

外装色彩の基調色（外観の大部分を占める色）・補助色（基調色の次に出現頻度の高い色）・アクセント色（極小面積で使われている最も目立つ色）の配色バランスにより、【シックデザイン】【ナチュラルデザイン】【トラディショナルデザイン】【カジュアルデザイン】【モダンデザイン】【ナチュラルモダンデザイン】【トラディショナルモダンデザイン】【カジュアルモダンデザイン】【ニュートラルモダンデザイン】の9つのデザインイメージカテゴリーに分類した。

従来よく見られるマンション外装色彩デザインイメージ



3. 調査結果と解析

図3に示すとおり2011年度はモダンデザインの出現率が最も高く、59%も占めていることがわかった。モダンデザインは2007年度から5年連続増加傾向にある。一方カジュアルデザインは1%と出現率が最も減少し、5年連続減少傾向にある。

2007年度、2008年度の調査結果は報告済み^{1),2)}であるが、モダンデザインは2008年度に細分化する新たなカテゴリーが登場した（図2）。モダンデザインの傾向を見てみると2009年度にはブラウンを基調色に白を補助色とした落ち着いた着きのあるトラディショナルモダンデザインが増加、2010年度はベージュ系の基調色に白を補助色とした温かみのあるナチュラルモダンデザインが増加した。2011年度はこれまでの調査でよく見られたトラディショナルモダンやナチュラルモダンが減少し、白+ライトグレー、ダークグレー+黒、または黒1色といったコントラストの弱いニュートラルモダンが増加した。モダンデザインの次に増加率が高かったのはシックデザインであり、これらのことから2011年度の特徴は、コントラストの弱い配色で、全体的に洗練された落ち着いた感じさせるデザイン傾向であると考えられる。

減少傾向にあるカジュアルデザインの詳細を見てみると、高彩度色の多色使いが特徴となっており、2007年度に最も多く出現していたが、2011年には大幅に減少している。要因として、2005年度に全面施行された景観法により、色彩規制が厳しくなったことが少なからず影響していると考えられる。また2008年のリーマンショック以降、コストの削減によりオーソドックスなデザインへの移行で特徴的な外観デザインが減少したことも一つの要因ではないかと考える^{1),2)}。

モダンデザインを細分化したデザイン新イメージ



図2 デザインイメージカテゴリー分類

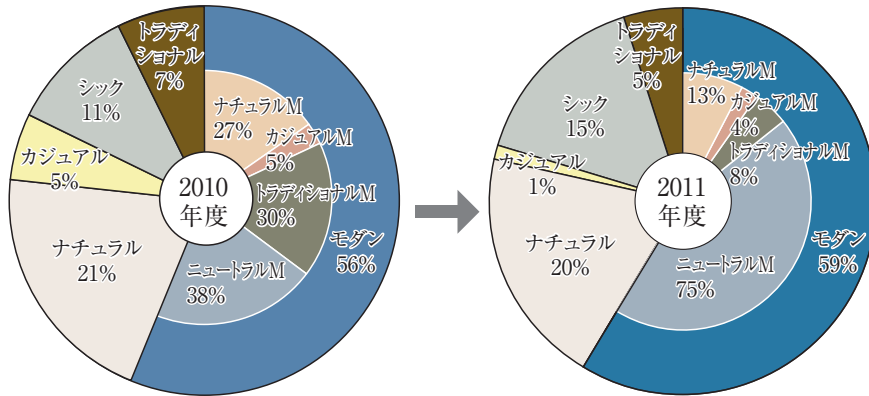


図3 2010年度(877件)と2011年度(953件)のデザインイメージカテゴリー出現率の比較

3.1 今までに無いデザインの出現

従来の9つのデザインイメージに含まれない新たなデザインイメージが、マンション供給量の多い首都圏、東海圏、近畿圏といった都市部を中心に出現した。

具体的にはナチュラルを軸としてデザインイメージが組み合わされていることがわかった。例えば基調色はベージュで、補助色にトラディショナルな印象を与えるブラウンや洗練された落ち着きを与えるグレーといったように、ナチュラル+トラディショナル、ナチュラル+シックといった従来別々であったデザインイメージを組み合わせたものが見られ始めている。

今回抽出された新たなデザイン分類は以下のような配色が特徴であり、デザインイメージとして以下のように名付けることができる(図4)。

- ・ベージュ+ブラウン (ナチュラルトラディショナル)
- ・ベージュ+ライトグレー (ナチュラルシック)



ナチュラルトラディショナル
ベージュやクリームを基調色にダークブラウン系を配色したデザイン

ナチュラルシック
ベージュやクリームを基調色に無彩色のグレー系を配色したデザイン

図4 デザイン新イメージ

3.2 県別による外装色彩デザインの傾向

県別によるマンション外装色彩デザインの傾向について述べる(図5)。

3.2.1 北海道 (n=20)

2010年度と比較し、調査時期に対象となる件数は微減している(21件→20件)。2011年度のマンション外装色

彩デザインの傾向は、白い面積が多くライトグレーが補助色となる明るいイメージのニュートラルモダンデザインが多く見られた。また、従来から良く見られたナチュラルデザインも次に多く見られたが、ベージュの色みが薄く全体的に明るい印象が感じられる。

3.2.2 東北地方(岩手県 n=1、山形県 n=2、宮城県 n=2、福島県 n=1)

2010年度と比較し、調査時期に対象となる件数はさらに減少しており(16件→6件)、青森県、秋田県では新築マンションが見られなかった。2010年はブラウンを基調色としたトラディショナルモダンデザインが多かったが、岩手県盛岡市、山形県山形市、宮城県仙台市、福島県郡山市では駅前のタワー型高層マンションが建ち並び、基調色にグレーや白を基調色としたニュートラルモダンデザインが増えている。

3.2.3 群馬県 (n=1)、茨城県 (n=2)、栃木県 (n=1)、山梨県 (n=1)

2010年度と比較しマンション供給量が少ない地域であったが、調査時期に対象となる件数は微減している(6件→5件)。2010年度のマンション外装色彩デザインの傾向はベージュやライトグレー1色のシンプルなデザインが多かったが、基調色と補助色でコントラストをつけたニュートラルモダンデザインが増えている。

3.2.4 埼玉県 (n=46)、千葉県 (n=29)

マンション供給量が多いエリアであったにもかかわらず、2011年度は調査時期に対象となる件数は減少している(90件→75件)。2010年度の外装色彩デザイン傾向は埼玉県では他県と比較し、補助色に彩度がやや高いオレンジやブラウンを使用しているカジュアルデザインやトラディショナルモダンデザインが多い傾向にあったが、2011年度は明るいナチュラルデザインやダークグレーを広い面積に使用したニュートラルモダンデザインが増えている。

千葉県では外装色彩デザイン傾向も多種多様で様々なデザインが見られた。全体的に白が広い面積を占めるデザイン傾向で外壁が明るい印象である。

3.2.5 東京都 (n=375)

マンション供給量が最も多く、2010年度と比較し調査時期に対象となる件数は105件増加している(270件→375件)。特に23区でのマンション数が増加している。

マンション外装色彩デザインは落ち着きのあるトラディショナルモダンデザインが減少し、ニュートラルモダンデザインやシックデザインといった明るい印象のマンションが増

加した。港区や中央区などオフィス街に近い都心部では、ニュートラルモダンデザインは白+ダークグレーといったコントラストのはっきりした配色、またタワー型マンションには黒に近いダークグレー1色が広い面積を占めるデザインが出現している。品川区や江東区といった住宅街のマンションでは白+ライトグレーといった明るく柔らかい印象のモダンデザインが多くなっている。また2010年度と比較してオーソドックスなナチュラルデザインも増えてきている。

3.2.6 神奈川県 (n=94)

2010年度と比較しマンション供給量は微減したものの(97件→94件)、調査時期に対象となる件数は全国で2番目に多い94件である。マンション外装色彩デザインは2010年度と同様にモダンデザイン、ついでナチュラルデザイン、となっているが供給量も多いため多種多様なデザインが見られた。2011年度の特徴は白を広い面積に使用し、補助色にグレーを使用したコントラストのある明るい印象のニュートラルモダンデザインが増えている。

3.2.7 新潟県 (n=1)、長野県 (n=3)、富山県 (n=1)、石川県 (n=1)、福井県 (n=0)

2011年度と比較し、調査時期に対象となるマンション件数は微増している(5件→6件)。もともと供給量が全国的に見ても少ない地域のため、そのデザインにもオーソドックスなものが多いが、2010年度には見られなかったニュートラルモダンデザインが出現した。

3.2.8 静岡県 (n=15)、岐阜県 (n=3)、三重県 (n=6)

2010年度と比較し、調査時期に対象となるマンション件数は3県とも増加している(12件→24件)。2010年度は、ナチュラルモダンデザインとシックデザインの明るい色が多かったが、2011年度は、補助色としてダークブラウンなど濃色を使用したトラディショナルモダンデザインが見られた。

3.2.9 愛知県 (n=70)

調査時期に対象となるマンション件数は2010年度と比較し増加している(49件→70件)。増加に伴いマンション外装デザインも多種多様となっているが、2011年度も同じ傾向にある。ナチュラルデザイン、ニュートラルモダンデザインの明るい色と同様に、補助色にダークブラウンやダークグレーを使用したトラディショナルモダンデザインとニュートラルモダンデザインが増加している。外装色彩デザインの明度のバリエーションが最も多く見られた。

3.2.10 大阪府 (n=76)

2011年度の調査時期に対象となるマンション件数は減少し、今までは全国で2番だったが3番目となった(98件→76件)。2010年度から大阪市内と大阪市以外のマンション供給量が同等になってきている。

供給量が多い地域のため多種多様なマンション外装デザ

インが見られるが、大阪市以外では明るいナチュラルデザインやナチュラルモダンデザインが半数を占めている。またグレーを広い面積に使用したニュートラルモダンデザインも増加しており、中でも黒や黒に近いダークブラウンを広い面積に使用したデザインが出現し始めた。

大阪市ではベージュ、ダークブラウンを使用したナチュラルモダンデザインやトラディショナルモダンデザインが大きく減少し、代わりに無彩色で配色されたニュートラルモダンデザインや低彩度のライトグレーを使用したシックデザインが増加した。

2011年度の特徴としては基調色が黒に近い重みのある印象のニュートラルモダンか低彩度で明るく淡いイメージのマンションに分かれた。

3.2.11 兵庫県 (n=48)

2010年度と比較して、調査時期に対象となるマンション件数は減少している(65件→48件)。供給量は減少したものの全国的に見ても多い地域のため、マンションの外装色も多種多様なデザインイメージを見ることができた。2011年度の特徴としてはダークグレーや、黒を広い面積に使用したニュートラルモダンデザインが出現し始めている。

3.2.12 京都府 (n=12)

2010年度と比較し、調査時期に対象となるマンション件数は微減している(14件→12件)。2010年度はトラディショナルデザインやライトグレーが基調色のシックデザインが多かったが、2011年度もその傾向は変わらず、明るいイメージのナチュラルデザインが若干増えた。トラディショナルデザインも従来どおり出現しているが、2010年度と比較して黒に近いダークブラウンへと変化しており、重厚感のあるマンションが見られた。

京都府の特徴としては全国的に増加しているモダンデザイン傾向があまり見られず、ベージュ系やブラウン系といった従来から良く見られている外装デザインの傾向が保たれている。

3.2.13 滋賀県 (n=4)、奈良県 (n=2)、和歌山県 (n=0)

マンション供給量はあまり多くない地域だが、2011年度の調査時期に対象となるマンション件数は減少している(9件→6件)。歴史的な街並みを有するこの地域は今までブラウン系を使用したトラディショナルデザインが多かったが、2011年度はベージュを使用したナチュラルデザインに変化している。また2010年度にあまり見られなかった白を基調色としたニュートラルモダンデザインが増えていることからこの地域にも全国的な外装色彩の流行が見られた。

3.2.14 岡山県 (n=11)、広島県 (n=22)、山口県 (n=4)、鳥取県 (n=0)、島根県 (n=1)

2010年度と比較し、調査時期に対象となるマンション件数は減少している(43件→38件)。2010年度は広島県で

は、オレンジブラウンや明るめのブラウンを使用したカジュアルデザインが多く見られるのが特徴であったが、2011年度はオレンジブラウンが少し落ち着いた色のカジュアルデザインに変化した。また、今までに無かったライトグレーやダークグレーを広い面積に使用したシックデザインが増え全体的に落ち着いた印象となっている。岡山県、山口県、島根県では2010年度はブラウン系を使用したトラディショナルデザインが多く落ち着いた印象であったが、2011年度は広い面積にライトグレーを使用したシックデザインが増え、落ち着きの中にも明るくなった印象である。

3.2.15 徳島県 (n=3)、香川県 (n=3)、愛媛県 (n=1)、高知県 (n=2)

四国地方は他の地方と比べると、調査時期に対象となるマンション件数は減少している(15件→9件)。マンション外装デザイン傾向は、高知県、徳島県では2010年度には見られなかったライトグレーを広い面積に使用したシックデザインが出現した。愛媛県、香川県は2010年度に比べて全体的に若干明るめのトラディショナルデザインが見られた。

3.2.16 福岡県 (n=54)

2010年度と比較し、調査時期に対象となるマンション件数は増加している(46件→54件)。マンション外装デザインは2010年度に多く見られたオーソドックスなナチュラルデザインは変わらず見られたが、白やダークグレーが広い面積のニュートラルモダンデザインが増加した。2011年度の特徴はどのデザインでも基調色と補助色のコントラストがあまりない配色が多くなっている。

3.2.17 長崎県 (n=6)、鹿児島県 (n=5)、大分県 (n=3)、佐賀県 (n=3)、熊本県 (n=7)、宮崎県 (n=3)

マンション供給量は多くない地域だが、2010年度と比較し、調査時期に対象となるマンション件数は大分県では同じで、他の県では増加している(16件→27件)。2010年度のマンション外装デザインは明るいブラウンのトラディショナルモダンデザイン、ナチュラルデザイン、白を広い面積に使用したモダンデザインが多かったが、2011年度はオーソドックスなナチュラルデザインと彩度の低いシックデザインが増加している。また従来のモダンデザインは減少し、濃いブラウンやダークグレーが広い面積となるニュートラルモダンデザインが増えている。

3.2.18 沖縄県 (n=8)

2011年度と比較して、調査時期に対象となるマンション件数は微増している(5件→8件)。2010年度以前によく見られていた比較的彩度の高い色を補助色としたカジュアルデザインは減少し、代わりにライトグレーを基調色とした低彩度のシックデザインが出現した。

カジュアルデザインであるが、補助色の面積が少なくなり彩度も落ち着いた色となり全体的に明るくすっきりとした印

象である。

4. 2011年度の考察

近年長引く不況の影響により家で過ごす時間が増えたことで、住まいにこだわりを持つ人が増加している。2000年度にはガーデニングの流行で、草花が映えるオレンジ系の外装色彩が見られるようになり、カジュアルデザインの流行のきっかけとなった。このようにライフスタイルが外観デザインに影響を与えていたが、ここ数年のインテリアブームの到来によりインテリアがマンションの外観デザインにも影響を与え始めている。

最近のインテリアの傾向は、グレーをベースとして落ち着きを持たせた中にカラフルな色をアクセントとして使い、メリハリを持たせた配色が多く見られる³⁾。

どの色とも調和するグレー系の色は幅広い年代にも受け入れられ、外観デザインにも反映されているのではないかと考えられる。またグレー系の色彩から連想できる石やコンクリートといった無機質なイメージは、堅牢さを感じさせる。これらのことから、2011年度の外観デザインの特徴である、コントラストの弱い白やグレー、黒といったニュートラル系でまとめられた外観デザインは、全体的に洗練された落ち着きと堅牢さを感じさせている。これらのことは、震災以後住まいに求められている安心感につながることから、ニュートラル系を基調色とした外観デザインの傾向は、今後も続くのではないかと考えられる。

5. おわりに

調査を始めた2007年度から2011年度の5年間で、外観デザインは大きく変化していた。色は時代を表すと言われていたが、調査を継続してきたことによりマンションの外観デザインからも大まかな時代の流れを見ることができた。特に供給量が多い地域では、外観デザインが購入意欲に少なからず影響を与えるため、ライフスタイルの変化や、時代の気分をいち早く取り入れているのであろう。我々カラーデザイナーもインテリアやライフスタイルの変化を把握し、時代を先行するカラーを提案していく役割をもっている。しかし、住まいは個人の生活の安息の地であり、外観デザインは良好な街並みづくりの重要な役割を担っている。我々は今後も、流行を取り入れただけのデザインではなく、その土地の気候、風土を軸に、ライフスタイルや時代の気分を組み込んだ色彩提案をしていきたい。

参考文献

- 1) 石原麻子、桂川有加: 塗料の研究、150、24-29 (2008)
- 2) 石原麻子、桂川有加: 塗料の研究、151、64-70 (2009)
- 3) 日経デザイン、[298]、55-58 (2012)